

最新の技術・製品情報をお届けします



精密機械



双腕スカラロボット「duAro」がソフトバンクの人型ロボット「Pepper」と連携 ～ロボットの適用範囲拡大に向けて共同提案を開始～

川崎重工は、ソフトバンク株式会社(以下、「ソフトバンク」)、ソフトバンクロボティクス株式会社(以下、「ソフトバンクロボティクス」とともに、人共存型で産業用途向けの双腕スカラロボット「duAro」と人型ロボット「Pepper」を組み合わせ、人とのコミュニケーションに基づいて作業をするロボットの提案活動を開始し、さまざまな分野におけるロボットの活用を図ります。

日本国内では、今後、毎年72万人の労働人口が減少し、人手不足が喫緊の課題となっています。産業用ロボットは、人を助ける存在として活躍の場を広げていますが、さらなる普及を目指すには、初めてロボットを使う作業にも扱いやすい操作性が求められています。

そこで、人が両手で行う作業を置き換えられる「duAro」と、人とのコミュニケーションが得意な「Pepper」を連携させ、人が「Pepper」とのコミュニケーションを通じて「duAro」を操作するなどの新しい使い方を開発することで、産業用ロボットの操作に習熟した作業者がいない工場や店舗、事務所などへのロボットの導入をサポートします。また、

「duAro」の作業状況などのデータを、情報発信が得意な「Pepper」が読み取り、人に伝えることで遠隔監視や遠隔操作が可能になります。



モーターサイクル&エンジン



スタンドアップタイプの「ジェットスキー SX-R」を新発売

川崎重工は、アクティブなマリナーとして人気のパーソナル・ウォータークラフトの新機種「ジェットスキー SX-R」を、2017年3月16日より販売開始しました。

この「ジェットスキー SX-R」は、「ジェットスキー*1」シリーズで唯一のスタンドアップタイプのモデルです。スタンドアップタイプとは、立った状態で操縦する一人乗りのモデルのことで、複数人数でシートに座って乗るランパウトタイプと比べ、よりスポーティーなライディングが楽しめます。スタンドアップタイプは、全身を使って艇を操り水上を自由に駆ける楽しさが多くのファンに支持されており、川崎重工では、2011年に生産終了した「ジェットスキー 800 SX-R」以来、6年ぶりの市場投入となります。



※1 「ジェットスキー」は、川崎重工の登録商標です。

車両



米国の車両工場 鉄道車両製造累計2,000両を達成



川崎重工は、米国の現地法人Kawasaki Motors Manufacturing Corp., U.S.A (KMM、ネブラスカ州リンカーン市)において、製造累計2,000両を達成し、2017年2月2日(現地時間2月1日)、記念式典を行いました。記念すべき2,000両目の車両は、ワシントン首都圏交通局向け7000系地下鉄電車です。

KMM車両工場は、川崎重工グループにおける米国2カ所目の鉄道車両製造拠点として、2001年より操業を開始し、構体製造から最終組立まで一貫製造を行っています。2010年2月には、製造累計1,000両を達成したほか、同年12月には、生産ラインの増設や試験設備を導入し、工場を拡張しました。近年は、ニューヨーク市交通局向け地下鉄電車やメトロノース鉄道向け通勤電車を製造するなど、米国の旺盛な需要に対応しています。

航空宇宙



輸送ヘリコプター「CH-47J/JA」 累計100機納入を達成

川崎重工は、陸上自衛隊および航空自衛隊向けに輸送ヘリコプター「CH-47J/JA」を製造しており、この度100機目にあたる「CH-47JA」を、陸上自衛隊第1ヘリコプター団に納入しました。「CH-47JA」は、陸上自衛隊の輸送ヘリコプター「V-107」の後継機として導入されたタンデムローター式の機体で、機体前後上方にローター・ブレードを、機体後部に物資等の搭載・卸下が容易に行える大型ランプ・ドアを有し、操縦性、安定性に優れ、災害対応・人員輸送・国際任務対応など幅広い任務で活躍しています。



タイで細胞自動培養システムを使用した世界初のひざ軟骨細胞治療の臨床研究を実施



川崎重工は、タイのチュラロンコン大学との共同研究で、川崎重工独自開発の細胞自動培養システム「AUTO CULTURE(オートカルチャー)*1」を用いた間葉系幹細胞の自動培養に取り組んでおり、2016年12月27日、同大学が培養された間葉系幹細胞を用いたひざ軟骨の細胞治療を実施しました。ロボット技術で自動培養した細胞での臨床研究は世界で初めてです。

川崎重工は、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)とタイ商業省が共同で推進した再生・細胞医療プロジェクト(2011年度~2013年度)*2に参画し、チュラロンコン大学に「AUTO CULTURE」を設置するとともに共同研究契約を締結して、ヒト細胞の自動培養および治療実施に向けた実証実験を進めてきました。今回、同大学により、脇谷滋之教授(武庫川女子大学)が開発した「自己骨髄間葉系幹細胞移植による関節軟骨欠損修復法」を応用した細胞治療が実施されました。今後は、「AUTO CULTURE」で自動培養された細胞での臨床研究を引き続き行い、治療効果の検証を通してタイにおける医療技術・福祉の向上を目指します。

※1 「AUTO CULTURE」は、川崎重工の登録商標です。 ※2 「再生・細胞医療プロジェクト」:環境・医療分野の国際研究開発・実証プロジェクト(先進的医療機器システムの国際研究開発および実証/再生・細胞医療技術及び製造インフラ最適化の研究開発)